

“大切な花”を咲かせよう

保育所等訪問支援通信NO. R6-1



桜がきれいに咲き誇る中、ときどき・わくわくの新年度がスタートしました。新しい1年の始まりには不安も付きものですが、先生方と一緒に子どもたちの成長を応援していきたいと思えます。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。今年度の通信は1つのテーマに絞らず、これまで訪問支援を実施する中で先生方から話題に上がることの多かったことや、支援員としてお伝えしたいことを綴っていきます。初回は「インクルーシブ保育」についてです。とても難しいテーマではありますが、インクルーシブの捉え方や、私達支援者に“できること”を一緒に考えるきっかけになれば幸いです。

インクルーシブとは？

「包括的な」「すべてを含んだ」

でも…

インクルーシブ保育(教育)とは？

子どもの障がい、国籍に関わらず、同じ空間で生活・保育(教育)を行うこと。個人の違いを踏まえた上で、それぞれの在り方を認め合う保育のことです。

“個々への対応はせず、同じ環境で教育する”インテグレーション教育(統合教育)とは違う！(個々の個性を活かしづらい)

インクルーシブ保育の“課題”“難しさ”がある！

・職員体制 ・人材育成

・専門的な支援をするための人材と財源確保など…

インクルーシブ保育の重要性はわかっても、実践するには課題が多いことも現実です。しかし、限られた環境や資源の中でも、“できること”を探し出すことは可能なのです！下記の3つの事例は、インクルーシブ保育を実践された先生方のアイデアです。

事例① 発表会「僕は大道具係☆」

(年中・男児)

この園児のクラスでは、発表会でオペレッタを披露する予定でした。それぞれやりたい役を先生と相談しながら決めましたが、男児は参加を嫌がりました。練習が始まって中々参加することが難しかったのですが、ある日先生とのお話しの中で、先生が担当する“大道具係”をやりたい！と話してくれました。「先生と同じ黒い服(裏方の先生は上下黒い服を着用)を着たい」とも話してくれ、当日は先生と力を合わせて、ステージ変換の際にセットを運んでくれました。発表会にクラスメイトと一緒に参加し、自分の役割を堂々と果たしました。

事例② 日常「みんなでパーティーを使おう！」

(年少・男児)

新しいことや、友達の視線が気になる等で不安定になりやすい男児。パーティーで仕切った場所で過ごすと、気持ちの切り替えをすることができます。保護者からは、男児だけがパーティーを使うことへの「特別感」が気になると相談があったので、先生方と話し合い“誰でも使えるパーティー”を新たに作成。クラスメイトも自由に遊ぶ時間を作り、生活の中にパーティーが溶け込んでいきました。パーティーの中で遊ぶと楽しいよね！なんだか安心するね！という先生方の言葉や姿勢も大切だと感じました。

事例③ 活動「みんな同じ“ひまわり”」

(年長・男児)

この日の制作はちぎり絵でした。この作業が苦手な男児でしたが、ちぎった色紙の代わりに、花紙を丸めたものを貼り付けました。クラスの掲示板に、男児の大きなひまわりも綺麗に咲いていました！

3つの事例に共通しているポイントは、「何を同じとするか？」です。また、本人とお友達の双方にとって、合理的な配慮になることも重要です。

子ども達が、意識しなくても実践できるインクルーシブがある！



関係者全員の理解と協力が必要！

インクルーシブ保育を進めるには、保護者の理解も必要です。保護者は「わが子だけ、周りと違う」という印象を持ちやすいです。上記事例では、実際に「友達はどうか？」という声が保護者からあがったので、保護者と先生が相談しながら進めてきました。一番大切なのは“本人の気持ち”ですが、保護者の思いにも寄り添いつつ、本人の思い・様子、またクラスの様子を丁寧に伝えたり、合理的配慮を行うことで生まれる大きなメリットを伝えたりすることで、保護者にも“インクルーシブ保育”を理解してもらいながら保育を進めることができます。また、園内では担任以外の先生にもお子さんのことを知ってもらうことも重要です。実践において課題が多くても、“できること”を一緒に考えていけるといいですね！

参考資料：令和5年度 つづしが崎学園主催 保育所等訪問支援研修会

参考書籍：「発達支援 基本のき」 坂崎隆治 著 ・ 「発達障害がよくわかる本」 本田秀夫 著

「友達のことをたくさん知ろう！」

普段から相手のことをよく知っていると…人それぞれに違いがあるのは当たり前という柔軟な考えが身に着くのではないのでしょうか？

→子ども達自身で様々なことを“当たり前”に受け入れ、友達と接することが出来る！

「特別な支援」が「思いやり」ではなく「当たり前になるといいですね★」



吉岡かよ

好きなこと♡⇒スポーツ観戦
一言⇒子どもも先生も楽しく過ごせる『支援』を目指していきたいです！



大柴知子

好きなこと♡⇒楽器演奏♪映画鑑賞★
一言⇒「楽しい支援」のアイデアを、先生方と一緒に考えていきたいです！



岩下詩歩

好きなこと♡⇒旅行・寝ること
一言⇒親御さんと先生方と一緒に、子ども達の笑顔をサポートさせていただきます



児童発達支援センター つづしが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013

山梨県甲府市岩窪町614番地

Tel 055-251-7678

Fax 055-251-7679

Mail ooshiba@tutuji.or.jp

担当：吉岡かよ 大柴知子 岩下詩歩